
理想＝現実

美空遊衣

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

理想Ⅱ現実

【Nコード】

N8994M

【作者名】

美空遊衣

【あらすじ】

理想と現実。全然違う。でも理想が現実になったら嬉しいよね。

1.

あなたとあたし。

繋がるまで遠回りしちゃったね。

なんでもっと早く気づかなかったんだろうね。

今更ながらに思うよ。

でもね

遠回りして分かった事

いっぱいあったよね。

お互いの事、

周りの事・・・。

結局は遠回りしてよかったかもね。

色々な事に気づけたから。

今は本当に幸せだよ。

お前の事幸せにする

って言ってるけど

もうあたしは

あなたに出会えただけで、

あなたと繋がれただけで

十分幸せなんだよ。

普段こんな事言えないから

この場を借りて言うね。

“ ありがとう……”。

2.

4月。

高校入学したての春のこと。

「ねえ尋架、体育館ってこっちで合ってる？」

「えー分かんない・・・。」

「体育館どこ？」

と、あたしが言う

「体育館ならこっちだよ。案内してあげるよ。」

と、背の高い同じ制服を着ている男の人が言ってきた。

「え？ ホントですか！！？ ありがとうーございます！！」

「いーよ全然。じゃーこっちだから行こうか。」

「「はい！！」」

ちょっと歩くと案内してくれてる人が

「そー言えば1年生だね？」

「「はい！」」

「そっかー。俺も良く迷ったよ、1年の時は笑」

俺3年の大崎 彰。宜しくな！」

「あ、あたしは1年5組の神崎 夢です！」

「うちは1年5組多田 尋架です。宜しく願います。」

「5組か。俺は1組だからちょっと遠いな笑」

「ですな笑」

「あ、着いた着いた。体育館はここだからしっかり覚えろよ？
又なんか有ったらいつでも頼って！」

「はい！ ありがとうーございます！！」

「んじゃーばいばい！」

「「ありがとうーございました!！」」

大崎先輩と別れあたし達は

体育館の中に入り

学年集会をした。

集会が終わわり教室へ帰ってる途中

尋架が来て

「さっきの先輩かつこよくなかった？」

と、言ってきた。

「えー？そお？あたしは普通だと思うよ。」

「そーかなあ？」

あたしと尋架は入学式の日知り合ったんだ。

それからずっと一緒に居るの。

だから結構仲が良いんだよね。

「それより部活どーする？」

「え？あたしまだ決まってるないんだ。」

「そっか！じゃーうちと一緒にしよーよ！」

「うん、いいよ!!」

そして教室に着き

HRが始まった。

「部活何にするか決まったか？入部届けは明日までだぞ！忘れるなよ！」

「んじゃ今日は以上で解散！」

HRが終わった。

尋架の所へ行こうとしたら

尋架が先にあたしの所へ来た。

「ねえねえ、部活どーする？なんかマネージャーでも入った事になるってよ？」

「え！？そーなの？んじゃーあたしマネージャーやりたい！！」
と、あたしが言ったら

「あー、男子テニス部のマネージャー、一緒にやらない？」
と、背のちっちゃい女の子が聞いてきた。

「え？男テニスマネージャー？」
と、尋架。

「うん、うちやりたいんだけど、一緒にやってくれない？」
「どーする？夢。」

「んー…。あたしはいーけど尋架は？」

「うちもOKっちゃOKだよ。」

「ほんと！！？んじゃ決まり！一緒に入部届け出しに行こ♪」
と、女の子。

「待って、あなた名前は？あたしは神崎 夢。」

「あ、ごめん、名乗ってなかったね。うちは小島^{こじま} 裕美^{ゆみ}。宜しくね！」

「うちは多田 尋架。宜しく。」
と、自己紹介しながら職員室に行った。

ガラガラ

「失礼しまーす。城畑先生は居ますかー？」

と、裕美が男テニ顧問の城畑先生しろはたを呼んだ。

「はい！なにか用か？」

「はい、入部届けを……。」

と、言いながら裕美はあたし達の分も一緒に入部届けを渡した。

「ん？マネージャーか？」

「はい！」

「そーかそーか。分かりました。預かります。」

「はい、失礼しましたー。」

ガラガラ

裕美が職員室から出てきた。

「どーだった？」

と、尋架が聞いた。

「え？普通に渡して終わったよ。」

「そっか。なんかウケるね、男テニマネージャーって笑」

「「そーだね！！」」

なんてこんな話を話しながら帰った。

* * * * *

* * * * *

部活総会。

この日は放課後に部活総会が有った。

部活総会とは、各部活ごとに集まって、

今年の目標、部員全員の自己紹介などをする

各部活の強制集会だ。

つまりここで1年生は初めて部活の先輩とご対面って訳だ。

「なんか緊張しない？」

と、裕美。

「うん、今ちょー緊張気味。」

と、あたし。

「つか、マネージャーの先輩居ないんでしょ？気まずくね？」

「確かに・・・。」

「まあ、出しちゃったもんは出しちゃったし、

行くしかないでしょ！！」

と、裕美。

「「ポジティブだね」；」

「まあね、よく言われる。いざ出陣！」

ガラガラ

男子テニス部が集まる教室のドアを
裕美が開いた。

バツ！

一斉に全員の視線がこっちに向いた。
そして、

「あぁっ！！！夢ちゃん！！？だよね？」

「え？・・・あっ！！！！大崎先輩！！？」

「え！！！！大崎先輩！！？」

と、尋架が割り込んできた。

「そーそー！！やっぱ夢ちゃんかー！

おっ！尋架ちゃんも居るじゃん！！」

「こんにちは！！」

「こんにちは！え？なに？もしかして、3人とも男テニのマネージャーやってくれるの？」

「ちげーだろ笑」

と、大崎先輩の友達が言った。

「え？男テニマネージャーですが何か？」
と、裕美が言った。
その瞬間、

[illegible]

と、男テニ部員全員が声を張り上げた。

「え？」

あたし達3人で声を揃えて言った。

「マジで……!? マジでやってくれるの??」

大崎先輩が目をキラキラさせながら聞いてきた。

「はい、そのつもりですけど・・・。」

と、裕美。

「マジかマジか、やったな！みんな！念願のマネさんだー！！！！」

「いゝい！」

と、なんか大ハシヤギしている男テニの2, 3年生。

すると、

「おい！！静にしろー！！！！始めるぞー！！」

と、城畑先生が言いながら来た。

「マネージャーもてきとうに座って。」

「はい」

あたし達は1年生が多い所の一番前の席に座った。

「んじや改めて始めるぞ。それじゃー自己紹介から。3年からね。」

「えー普通1年からだろ。」

と、前のほうに座っている人が言った。

「いーからさっさと前から順番にしろ。」

と、城畑先生。

「ういー。んじゃー俺からだ。えーと3年3組板沼 義博です。宜しく。」

「えーと3年4組青山 聡史です。宜しく。」

「次俺か、3年4組の柴木 祐樹です。元部長やってきました、宜しく。」

「3年5組吉光 一真です。宜しくお願いします。」

「3年6組川野 竜太です。宜しくお願いします。」

「3年5組原 慶太です。去年までマネージャーの仕事してたので分からない事が有れば、いつでも聞きに来て下さい。宜しくお願いします。」

「3年5組齊藤 智久です。宜しくお願いします。」

「最後は俺か。3年1組大崎 彰です。宜しくお願いします。」

「あーやつと終わったか。んじゃ次2年ね。」

「はい、えと現部長の丸山 秀樹です。2年1組です。宜しく願います。」

「2年6組の鶴野 龍馬です。宜しくお願いします。」

「2年6組塚山 一樹です。マネージャーが入ってくれなかったら、俺がやる事になったので、ホント感謝です。宜しく願います。」

「2年1組谷村 亮真です。宜しく願います。」

「じゃー次1年。出身中学とクラス、名前ね。まずはプレイヤーから。」

「えと、1年5組木村 康弘です。清瀬中から来ました。宜しく願います。」

「1年5組倉木 健太です。田無中から来ました。宜しくお願いします。」

「1年5組加藤 大介です。立川中から来ました。宜しくお願いします。」

「はいじゃー次、マネージャー。」

「えーと、1年5組小島 裕美です。小金井北中から来ました。宜しくお願いします。」

「1年5組神崎 夢です。小金井中から来ました。宜しくお願いします。」

「1年5組多田 尋架です。東村山中から来ました。宜しくお願いします。」

「はいじゃー、早く名前と顔を一致させる事ね。えー、それと部費の方ね、ちゃんと出す様に。じゃー以上なので解散！」

ガタガタ

皆が一斉に立ち上がった。

「夢ちゃんばいばい!!!」
と、大崎。

「あ、さよーならー！」

「いーなーいーなー!!! なんで夢だけなのー?」
と、尋架。

「え？知らないよー；」

「大崎先輩、夢の事狙ってんじゃないのー？」
と、裕美。

「それはないと思うよ；？」

「んじゃーなんで夢だけなのー！？いーなー！！」

「いーなーと言われてもお・・・；」

「んじゃー大崎先輩の事好きになっちゃ駄目だよ？」

「え？あ、うん。」

「裕美もね？」

「はいはい。」

「良かったー！！さっそくアド貰いに行ってくる！！」
と、大崎の所へ行こうとして横を向いたら大崎が居た。

「わっ！！大崎先輩！！」

と、尋架。

「お？おお、尋架ちゃんか。ビックリした。それより夢ちゃん！
アド交換しない？」

「「え？」」

尋架とあたしで八モツタ。

「え？駄目だったり・・・？」

「え、あ・・・」

「お、大崎先輩！！あたしと交換して下さい！！」
と、尋架。

「え？あ、いーよ！」

「やったー！！じゃーあたし受信しますね。」

「お、おう。」

ピロピロリン

「じゃー今日メールするんで！」

「おう、分かった！夢ちゃんは？」

「え？あ、じゃー受信します。」

「良かったー！！駄目なのかと思った；じゃー送信するねー！」

ピロピロリン

「ありがと！今日メールしてくれる？」

「あ、はい！」

「じゃー待ってるねー！！ばいばあい！！」

「「さよーならー！！」」

「絶対好きにならないでよねー！！」

「大丈夫だってー；あたし尋架の事応援するしー。」

「ホント！！？良かったー！！ありがとね♪」

「う、うん！！」

3人でべちゃくちゃ喋りながら
家に帰った。

* * * * *

* * *

3.

5月。

そろそろグループが出来上がる時期。

3年生の引退。

あなたとの出会い・・・。

ゴールデンウィーク。

「大崎せんぱーい!!!」
と、あたし。

「おっ! 夢ちゃん!! と、裕美ちゃん! おはよー!」

「「おはよーございまーす!!!」」

「今日もジャグ宜しくね♪」

「「はい!!!」」

今現在部活に出ているのは

あたしと裕美だけ。
尋架は5月に入ってから家の用事で
部活に出れなくなってしまった。
だから、今部活に出ているのは
あたしと裕美だけだ。

「ジャグ今日水でいーよね？」
と、あたし。

「ん、いーと思う！」
「オッケー♪」

あたしがジャグの中に水を入れてみると、
「おっ！今日のジャグ水？めっちゃ冷たくしといて〜♪」
と、谷村先輩が言ってきた。

＊＊

そー。

あたしとあなたが
初めて喋った日。

あなたは覚えてる？

＊＊

「あっ！はい！！氷いっぱい入れときました♪」
と、あたし。

「マジ！！？やった〜♪ありがと！」
「いーえ！」

「んじゃ宜しくね!!」

「「はい!!」」

ジャグに水を入れ終わると

あたし達は

オムニコートにあるベンチに

ジャグと部員分のコップを置いた。

そして部活が終わり

ジャグやボールを片付け

ミーティングも終えた。

部室で制服に着替え

先輩達の待つオムニコートに行った。

「おー！来たか来たか!!」

と、大崎。

「お待たせしました；」

と、裕美。

「大丈夫！全然待ってないから♪」

と、斉藤。

「そーですか、良かった！」

と、裕美。

「んじゃ帰りますかっ！」

と、原。

「「はい!!」」

と、あたしと裕美。

そしてあたし達は駅方面の人達と一緒に帰った。

「「ばいばーい!!」」

「「ばいばい」」

あたし達は電車の方向が違う
1年生と別れた。

「夢ちゃん達は俺等と一緒にだよね？」
と、大崎。

「「はい!!」」

「じゃ、まだ一緒に帰れるなっ♪」

「はい!」

と、あたし。

あたし達は乗り換え駅まで
一緒に帰った。

「じゃ、ここであいばいだね。また明日ね!!」

「「はーい!!」」お疲れ様でしたー!!」

「お疲れー!!」

大崎は乗る電車が違うので
別れた。

「夢ちゃんは次の駅で降りるんだよね？」
と、川野。

「はい!さよならしたくないけど、さよならです。」

「はは！！かわいいーなあ！！又明日会えるよ！」

「でも明日で先輩達引退ですよね？そしたら毎日会えなくなっちゃう…。」

「まあね。でもちよくちよく行くからさ。そんなに悲しまないで？」

「はい！！絶対暇な時来て下さいね！！！」

「おう！！約束な！！！」

「はい！！約束です！！！」

プシューー

電車のドアが開いた。

「じゃ、さよーなら！」

「お疲れー！！！」

プシューー

ガタンガタン

「川野先輩って夢の事好きなんですか？」

「え？なんで？」

「なんとなく見てて思っただけです。」

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8994m/>

理想＝現実

2010年10月28日06時01分発行